

2023 年 6/24~25

日本の洋舞100年・第4弾

# ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2023

DANCE ARCHIVES in Japan 2023

中劇場 | 2回公演

●会員先行販売期間：2023 年 4/15(土)~4/18(火)

●一般発売日：2023 年 4/29(土・祝)

2023 年 6/24(土)14:00、25(日)14:00

料金 S:6,600 円 A:4,400 円

日本独自の創作舞踊のパイオニアたちの作品を復元上演する企画の第4弾です。

江口隆哉、石井漠、石井小浪、石井みどりらの下でダンスを始め、ともにその独創性と国内外での幅広い活動によって、日本独自のモダンダンスの第一人者として活躍した3人の女性舞踊家、芙二三枝子、折田克子、そしてアキコ・カンダ。その代表作をアーカイヴ上演し、日本の洋舞の原点を確認すると共に、「今」そして「未来」を展望し、日本人の魂に光をあてます。

照明：杉浦弘行

Lighting Designer: SUGIURA Hiroyuki

音響：山本 直

Sound: YAMAMOTO Nao

制作協力：（一社）現代舞踊協会 ダンス・アーカイヴ企画運営委員会

Collaborated with CONTEMPORARY DANCE ASSOCIATION of JAPAN (CDAJ)

## 上演作品

### 土面 Cray Face (1972年初演)

振付：芙二三枝子

Choreography by FUJI Mieko

音楽：三木 稔、松村禎三 ほか

Music by MIKI Minoru, MATSUMURA Teizo  
and others

出演：高瀬譜希子、中川 賢 ほか

Performers: TAKASE Fukiko, NAKAGAWA Ken  
and others

「縄文土器や土偶を見つめていると、ねたましいまでに豊かな生の恍惚と常世にもつ人間の生の恐怖とが伝わってきます。そういう、いかにもいきものらしい縄文人に、私は今、大変魅力を感じています。そこに見出す呪術性は魔力を自分のものに取り入れて、自力で懸命に生きるものの心願の現れとして共感を覚えます。」(芙二三枝子)

芙二のすべての作品は“宇宙”に繋がり、「自然によって生かされている」という真理に行きつきます。



『土面』1972 公演より ©関戸基敬

## 夏畑 Endless Summer (1983年初演)

振付：折田克子

Choreography by ORITA Katsuko

音楽：マラン・ゴゾフ

Music by Marran GOSOV

出演：平山素子、島地保武

Performers: HIRAYAMA Motoko, SHIMAJI Yasutake

「それぞれの中に幾つもの過ぎた季節の記憶がある。」1983年、舞踊作家協会主催公演で共通テーマ「LIFE」のもと初演。折田克子と泉勝志による伝説的なデュエットのひとつです。その後、振付、構成、使用曲に改訂を重ね、群舞シーンも徐々に加わって、大作に発展しました。夜着である綿入の「どてら」と、すっぽりと顔を覆い隠す大きなつばの麦わら帽子も、作品の重要なメッセージです。



『夏畑』1992 公演より ©スタッフ・テス(株)

## マーサへ より 三章「運命の道」 To Martha (2002年初演)

振付：アキコ・カンダ

Choreography by Akiko KANDA

音楽：フレデリック・ショパン

Music by Frederic CHOPIN

出演：折原美樹ほか

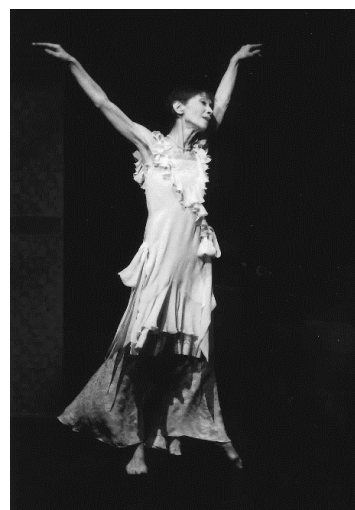
Performers: HARA Miki and others

マーサ・グラームの愛弟子として世界のダンスシーンに登場し、鮮烈な衝撃をもたらしたアキコ・カンダ。彼女が亡き師に捧げた『マーサへ』より「運命の道」を抜粋上演いたします。

く消えるのを忘れた 今も熱い思い出  
孤独の淵で 私を支えてくれるのは  
あなたの瞳の なかにいる私と  
向かいあう 時間だけ  
私をつつむ愛と呼ぶあたたかい魂だけよ  
マーサ どこにいるの

姿のない あなたを求めて泣き叫んでも 答えてくれる 声はない  
でも私は顔をあげて 歩いていく 自分が えらんだ道なのだから>

(詩：岩谷時子)



『マーサへ』2002 年公演より (撮影：池上直哉)

## バルバラを踊る より Dancing to Barbara (1980年初演)

振付：アキコ・カンダ

Choreography by Akiko KANDA

音楽：バルバラ

Music by Barbara

出演：中村恩恵

Performer: NAKAMURA Megumi

1980年『バルバラを踊る』として発表、以後様々な構成で上演を重ねて来ました。孤高のシャンソン歌手バルバラの音楽に触発され、代表作「黒いワシ」を軸にソロナンバーとして創ったこの作品は、タイトルに拘わることなく、観る方に自由に解釈し感じ取っていただき、無条件にモダンダンスを楽しんでいただくのを目標にしてきました。今回はアキコ・カンダが最も多く踊った「黒いワシ」「我が喜びの復活」の2曲の組み合わせで上演いたします。

## スタッフ プロフィール

## 振付: 芙二三枝子

Choreography by FUJI Mieko

(1923年～2018年)

石井漠、江口隆哉に師事、リトミックを小林宗作に学んだ。1955年、東京目白に舞踊研究所を設立、芙二三枝子舞踊団を結成。以来、独自のメソッドを開発して舞踊家を育て、意欲的な創作活動を展開する。61-72年までに6度受賞した芸術祭受賞作には『異郷人』『しまちゃび(孤島苦)』『こうのとりの鎮魂曲』『殉教』『昇れ太陽』『そこから』『土面』がある。その後も名作『巨木』(74年)他を発表し続け、76年ニムラ舞踊賞、83年舞踊芸術賞、99年江口隆哉賞受賞。また84年紫綬褒章、94年勲4等宝冠章を受章。2007年、東京都功労者表彰を受ける。米国、英国、中国、インド他で海外公演。著書に『芙二三枝子のダンスセラピー』『太陽風』がある。日本ダンスセラピー協会名誉会長、(一社)現代舞踊協会常務理事を経て相談役等を歴任した。18年3月逝去。



©関戸基敬

## 振付: 折田克子

Choreography by ORITA Katsuko

(1937年～2018年)

母である石井みどり(石井漠の高弟)に師事。父は作曲家、ヴァイオリニストの折田泉。1950年と55年、全国舞踊コンクール第一位文部大臣賞受賞。天才少女の名をほしいままにし、10代にして公演を開催。61年『体』(石井みどり)で芸術祭個人演技賞受賞。68年、現代舞踊家初の文化庁派遣芸術家在外研修員として渡米。帰国後は舞踊作家としても本格的な活動を開始、独創性溢れる作品の数々を国内外で発表し「東洋と西洋を融合する超自然的表現」と評される。97年新国立劇場オープニング記念公演で「梟の唄」を発表。87年江口隆哉賞、97年東京新聞舞踊芸術賞、ニムラ舞踊賞他多数受賞。2003年紫綬褒章、09年旭日小綬章受章。主な作品に『憶の市』『パラダイス・ロスト』『アリスの長い午後』『夏畑・エンドレスサマー』『杜の譜-カナリヤ抄』『隣の楽園』など。(一社)現代舞踊協会常務理事を務めた。18年10月逝去。



## 振付: アキコ・カンダ

Choreography by Akiko KANDA

(1935年～2011年)

7歳からダンスを始め、石井小浪に師事。1956年ニューヨークのマーサ・グラーム舞踊学校に入学、同舞踊団でソリストとして活躍。61年帰国。アキコ・カンダ ダンスカンパニーを主宰し、精力的に作品を発表。代表作に『バルバラを踊る』『マーサへ』『日本の調べ』など。なかでも80年発表の『バルバラを踊る』は、アキコのライフワークとも云われ、2006年には“100ステージ達成記念公演”を開催した。芸術祭大賞(74年)、芸術選奨文部大臣賞(88年)など多数受賞し、紫綬褒章(98年)、旭日小授章(07年)を受章。また、宝塚歌劇団の講師および振付を50年の長きにわたり担当、新国立劇場バレエ研修所コンテンツボラリー・クラス講師を務めるなど、後進の指導にも尽力した。11年9月、闘病中にも拘わらず、アキコ・カンダモダンダンス公演を開催。12日後に75歳で永眠する。



©篠山紀信